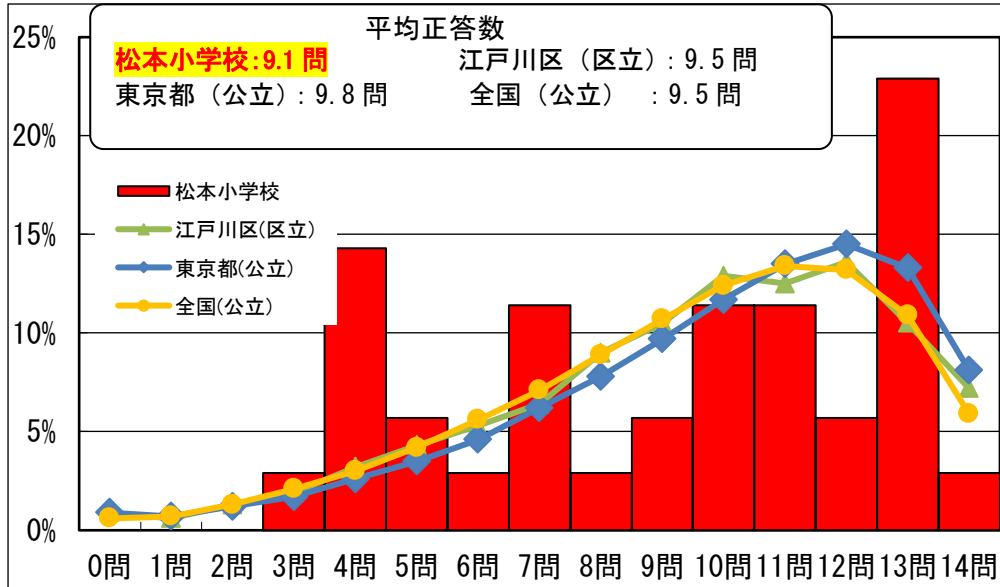


# 令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 松本小学校

## 正答数分布



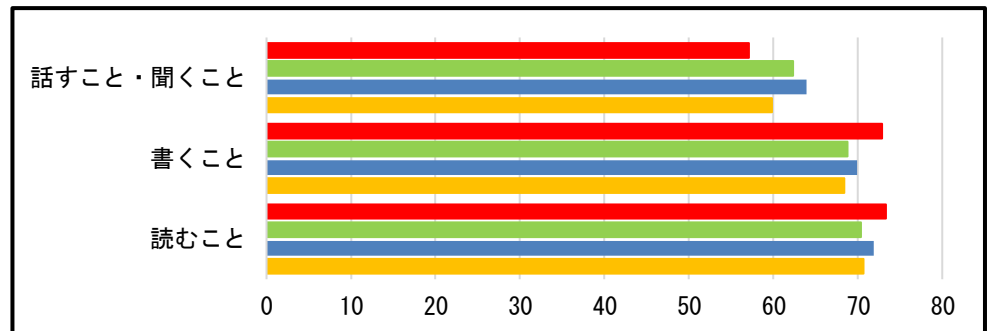
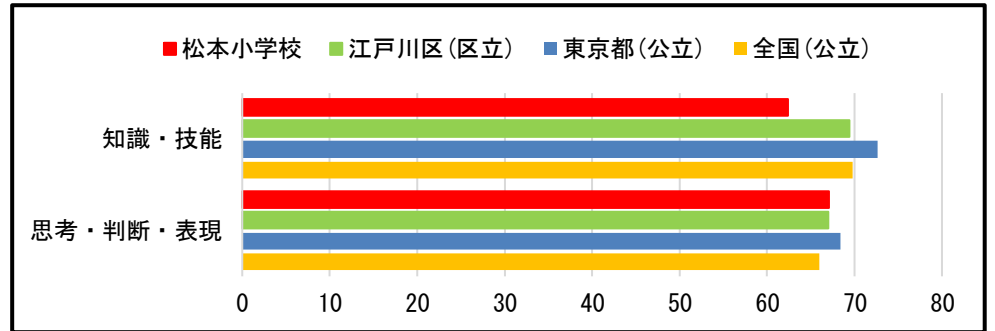
### <四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
<b>松本小学校</b>	<b>31.5</b>	<b>22.8</b>	<b>8.6</b>	<b>37.2</b>
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

## 「領域別」の結果



### 【平均正答率の差】

<b>松本小学校</b>	<b>65%</b>
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	<b>-5ポイント</b>

%

### 【分析結果と授業改善に向けて】

平均正答率は区、都、全国どれと比較してもやや下回っている。四分位における割合を見ると、D層が最も多く、次いでA層が多い結果となっている。中間であるB・C層が少ないことから、学力の二極化が顕著である。領域別の結果を見ると、「書くこと」「読むこと」は区、都、全国どれと比較しても平均を上回っているが、「話すこと・聞くこと」の分野が苦手なことが見て取れる。朝学習「めざスタ」等を通してD層の底上げを図るとともに、対話的な学びの中で、自分の考えに自信をもって伝えること、相手の意見を正しく聞き取る力を付けていくことが求められる。